



## 上毛緑産工業株式会社

吉岡町



代表者：高橋範行  
設立年月日：1975年6月25日  
資本金：3,000万円  
従業員数：21人

住所：北群馬郡吉岡町小倉 827-87  
TEL：0279-54-7723  
Mail：atsu-t@jouryoku.com  
URL：http://www.jouryoku.com



WEB サイト

### ● 事業者紹介

リサイクル緑化工法（PMC 工法）を主体とした、のり面保護工事を行っています。汚泥や木くずなどを活用した PMC 工法による緑化事業やのり面の保全事業を通じて、土砂崩れや落石など自然災害の発生を抑制し、快適で安全な郷土の生活環境の実現を目指しています。



### ● 経緯・背景

昭和から平成にかけて、県内でも大規模な都市開発が進む中で、建設業においても環境負荷の少ない、持続可能な資源循環型社会に向けた取組が求められるようになりました。そのような時代において、木くずや下水汚泥等の産業廃棄物を緑化用資材として活用する、リサイクル緑化工法の研究・開発をスタートさせました。



### ● 具体的な取組や成果

#### 群馬県内で発生した下水汚泥や木くずを材料として活用 緑化を目的としたリサイクル緑化工法として、PMC 工法を展開

1988 年からリサイクル緑化工法の開発に着手し、1992 年に PMC 工法として確立しました。現在では、主に公共工事におけるのり面の安定のための早期緑化を目的として、当工法が活用されています。

この工法の特徴は、使用されている材料の 100% が県産材であり、通常では産業廃棄物として処分されてしまう下水汚泥や木くずであるという点です。下水汚泥は群馬県の下水処理場で脱水処理されたものを使用しています。木くずは森林保全事業で生じる支障木、林業生産の現場で生じる樹皮などの未利用森林資源です。これらの資源は通常であれば廃棄されてしまいますが、独自の特許技術により植生基盤材へと再生し、のり面の緑化基盤として活用されています。

また、長年の取組が評価され、「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者」として国土交通大臣賞を受賞しました。

PMC 工法は群馬県発注の建設工事のほか他県でも施工され、環境負荷の低減や循環型社会の実現に向けてその実績を積み上げています。また、近年問題となっている放置竹林の整備で発生する伐竹も材料として活用するなど、現在も地域の問題を見据え、よりよい製品となるよう研究を進めています。



施工事例：崩壊のり面の緑化



施工事例：上信自動車道

#### 当社にとっての SDGs ビジョン

#### 循環型社会の実現に向け 緑化技術を建設業以外でも活用

地域社会の一員として、地域の安全と循環型社会の実現に向けた取組に一層励んでいきたいと考えています。今後は今までの経験と技術をもとに、さらなる環境負荷低減に向けた技術の確立や緑化技術の新たな活用を視野に入れ、循環型社会の実現に貢献していきたいと考えています。

#### 今後の展望と求めるパートナー像

#### 有機肥料に興味のある方々と 持続可能な社会を実現したい

現在、竹林整備により生じた伐竹を竹チップに加工し遅効性肥料としての活用を試みています。木くず、竹チップや汚泥肥料等による有機肥料の活用を検討している方々と、持続可能な循環型社会の実現に向けて連携していきたいと考えています。